

(1) 土地・気象

1. 地勢

本県は本州のほぼ中央にあり海に面しないが3千米以上の山地から海面に近い平野まであり古来「飛山濃水の地」といわれる。すなわち県の北部および東部の大部分は山地で、南部に濃尾平野の一部である美濃平野がある。山地は周辺の県境で高く中央から南部に低い。東部県境は飛驒山脈で、その北部の3千米以上の高峻な山々は日本での山岳美で日本アルプスの名があり、その南に乗鞍、御岳等の火山がある。西部県境は加賀山地、美濃越前山地、鈴鹿山地等で2千米前後の山々が続き北部に白山、大日岳等の火山をのせ、南部に伊吹山等がある。また美濃越前山地附近では断層に刻まれて不規則な山塊をなし、根尾谷は活断層で有名である。この東西県境の高い山地の間にそれより一段と低い飛驒高地、美濃高原があり、北部より南部へ高度と起伏を減じながら愛知県まで続いている。

地体構造上からは岐阜県は全部西南日本の内帯に入るので、その特色として古生層や花崗岩で覆われている所が広い。すなわち加茂郡から西方の美濃山地の大部分および飛驒東部は秩父古生層であり、土岐、恵那から加茂東部、益田、大野、吉城の各部は花崗岩や同質の花崗岩質斑岩に広く覆われている。その他は中世代のジュラ紀層が北西県境と古川附近の山地に二、三の塊をなし、新生代の新第三紀層が土岐、可児、恵那、加茂の各郡を養老、北飛驒の一部に見られるに過ぎない。

広い山地は水量豊かな河川の涵養地で、ほぼ乗鞍、位山、大日等の山を結んだ山地を分水界として長大な河川を太平洋側と日本海側に発している。日本海には宮川と高原川が神通川となり、白川が庄川となつてそそぐ。太平洋側は長野県から発する木曾川、それに合流する飛驒川（益田川）、長良川、揖斐川等の大河川が濃飛平野に集つて伊勢湾にそそぐ。これらの河川は山間地や中流部の隆起地帯で谷を深く刻んで狭谷をなし、現在は発電に開発されて日本での電源地帯となり、景勝地となつている。また川や谷の方向に高山、古川、中津川、大井、瑞浪、土岐津、多治見、高富、太田、関等の盆地がならんでいる。

美濃平野は大部分が沖積平野で北部に各務原の如き洪積台地を附し西方は急な山地に限られ、その麓に小扇状地を附している。沖積地の北部はゆるい傾斜の扇状地で、南部は平坦な三角州で木曾、長良、揖斐等の河川の堆積によるものである。扇状地と三角州の境はほぼ国鉄東海道線附近に当る。扇状地では排水がよく、河川の河床は比較的浅く礫が多い。三角州では排水が悪く、河川の流れはゆるやかで、河床は深く砂か泥で汐の干満の影響を受ける。扇状地の末端の境附近では「ガマ」と呼ぶ湧水地帯があり、平野の小河川の源となり、三角州地帯は地下水も豊かで、堀抜井戸も広く分布している。

2. 本県の位置

区 分	経 度	場 所	区 分	緯 度	場 所
極 東	東経 137°39'16"	吉城郡 上宝村	極 南	北緯 35° 7'49"	海津郡 海津町
極 西	東経 136°16'14"	揖斐郡 坂内村	極 北	北緯 36°27'42"	吉城郡 神岡町
県 庁	東経 136°45'	北緯 35°25'	岐阜市司町一番地		

資料：岐阜測候所